



2026 第1学期 マーク対策演習

近藤譲『〈音楽〉という謎』

①【問6ー本文の論旨『展開』『構成』に関する設問がある場合の青木方式】

💡 コツ 💡 『ユニット』ごとに設問をチェックし、解答可能なものは順次解答していく。

②【問2のように、ユニット内の設問は《神経衰弱読解法》で解答する】

💡 コツ 💡

- ①ミルフィーユタイプの、比較的短い間隔で、同じ（or 類似した）内容・表現が繰り返されるパターンに注目しよう！
- ②傍線部（およびその前後）や空欄の前後の内容の「繰り返し」が発見できた場合、それらを線などでつないでおく。

③【REVIEW ポイント①】

Q:「しかし、そのような『似たもの』との関連づけを通じて、音楽は、人の生における具体的な諸感情等々との結びつきを得る。」「しかし私達は、事実、『絶対音楽』にも、多くの感情を聴き出す。」ー、「音楽」が「諸感情等」と結びつく、「感情」を「聴き出す」ってどういう意味？

A: ①音楽そのものは、音の高さや長さが組み合わさった「音のカタマリ」にすぎません。しかし、私たちはその音を聴いたとき、無意識のうちに自分の知っている言葉やイメージに翻訳していますーってことが、書いてありましたよね（問2）？たとえば、「明るい音」は「楽しい」という感情に結びつきますが、これは明るい音→（明るいお日様の光や、楽しい昼間の活動に似ている！）→感情（楽しい！）という感じで、音楽が私たちの心の中にある感情を引き出しているのです。このことを筆者は、「具体的な諸感情等々との結びつきを得る」と難しい表現を使って説明します。

②絶対音楽（何かを表そうとする音楽ではない『音楽』）からも感情を聴き出すとは？＝「絶対音楽」というのは、歌詞や物語、あるいは「運命」といったタイトルさえついていない、純粋に音の組み立てだけで作られた音楽のことです。普通に考えれば、物語がないのだから感情も含まれていないはずですが、しかし、不思議なことに、私たちはそうした音楽からも「悲しみ」や「喜び」を聴き取ってしまいます。それは、人間が「動いているもの」に命や心を感じ取ってしまう性質を持っているからです。例えば、風に揺れる草を見て「寂しそうだ」と感じたり、勢いよく流れる川を見て「勇ましい」と感じたりすることがありますよね。音楽も同じです。音が上がったり下がったり、強まったり弱まったりする様子を、私たちは「生き物の心の動き」と同じように感じ取ってしまうのです。だから、作曲家が「この曲は悲しい曲ですよ」と言わなくても、聴く側は音の動きの中に自分自身の感情を映し出して、そこから感情を「聴き出す」ことができるのです。

💡 ざっくり言うと 💡

「音楽が感情と結びつくのは、私たちが音をそのまま聴くのではなく、自分の経験や記憶を使って「何かに似たイメージ」に作り変えて受け取っているからだ。」

④ 【REVIEW ポイント②】

Q:「私が作曲に惹かれて止まないのは、まさに、製作への専念が、謎の音楽的存在を——すなわち、真剣に解きたいという欲望を私自身の内に惹き起こす謎としての曲を産み出すからである。私は、この、真剣に解きたいという欲望を惹き起こす謎を、私にとっての『美』と呼び替えてもよいと思う。」ってどういう意味？

A:①なぜ「作る」ことが「謎を解く」ことになるのか？＝筆者は、音楽を作ることで、自分の予想を超えた「不思議な塊（音楽的存在）」が生まれると言っています。作り上げた瞬間に、その音楽は「自分の作品」であると同時に、自分でも正体が完全には分からない「未知の謎」として目の前に現れるのです。つまり、「自分が生み出したものなのに、自分でもまだその正体を突き止められていない。だから、もっと深く知りたい（解きたい）」。この不思議な感覚があるからこそ、筆者は「作る」ことに夢中になるのです。

②なぜその「謎」を「美」と呼ぶのか？＝「解きたくてたまらない謎」があるとき、人はそのことに夢中になり、心が強く動かされます。筆者はその「心を動かすエネルギーの源」こそが、自分にとっての「美」なのだと言っているのです。

💡ざっくり言うと💡「私が作曲をやめられないのは、一生懸命作れば作るほど、自分でも驚くような『不思議な音楽のナゾ』が生まれてくるからです。そのナゾを前にして、『どうしても正体を解き明かしたい！』とワクワクしてたまらなくなる気持ち。私はその『ワクワクさせてくれるナゾ』のことこそが、本当の『美しさ（自分が求めるもの/自分にとっての理想）』だと思うのです」

⑤ 【問3のように、複数の選択肢の間でどちらを選べば良いかと迷った場合】

💡コツ💡 それらを比較して、選択肢間の〈相違点〉や〈共通点〉に着目する→原則、傍線部の内容やその前後にも対応するものが『正解』。

⑥ 【REVIEW ポイント③】

Q:ジルソンの云う「美」と筆者（私）の云う「美」は何がどう違うのですか（問3）？

A:

ジルソンの美

- 根拠：宗教（神様）や伝統的な考え
- 正体：存在を超えた聖なるもの
- 役割：人を真実や善へと導く 印象：完成された静かな美しさ

VS

筆者の美

- 根拠：自分の創作活動から生まれる実感
- 正体：解きたいという欲求を起こすナゾ
- 役割：人を創作や探求へ駆り立てる
- 印象：好奇心を刺激する動的な美しさ

💡ざっくり言うと💡

「ジルソンにとっての美が『神様のような存在（超越者）、私たちを導いてくれる光』であるのに対し、筆者にとっての美は『私たちが夢中にさせるミステリー（謎）』である。」

⑦ 【REVIEW ポイント④】

Q: 「美しさが絶対的な価値になる」ということと、シュトックハウゼンの衝撃的な発言がどうつながるのか？

A: ① 「絶対的な価値」とは？ → 「何よりも優先される、たった一つのものさし」

②例：

普段、私たちは物事を判断するときに、いくつかの「ものさし」を組み合わせ使っています。

- それはきれいか？（美しさのものさし）
- それは正しいか？（正しさ・道徳のものさし）
- それは人に迷惑をかけないか？（思いやりのものさし）

普通は、どんなに「きれい」なものであっても、それが「悪いこと」であれば「やってはいけない」と判断しますよね。しかし、「美しさが絶対的な価値だ」と信じ込むということは、他のものさしをすべて捨てて、「美しいかどうか」だけで物事を決めるということです。

③シュトックハウゼンという作曲家は、ニューヨークで起きたテロ事件（多くの人が亡くなった悲惨な事件）を目の当たりにしたとき、本来なら真っ先に使うべき「道徳のものさし」を忘れてしまったんですよ。彼は、その事件を「たくさんの命が失われた犯罪」として見るのではなく、「ものすごいエネルギーが爆発し、世界中の注目を集めた、これまでにない巨大な演出（できごと）」として、つまり「美しさ（芸術性）のものさし」だけで見てしまったのです。その結果、「こんなにすごくて、みんなの心を揺さぶるものは、最高の芸術作品だ」という、普通の感覚では考えられない発言をしてしまったのです。

④なぜそれが「悍（おぞ）ましい」のか

「悍ましい」とは、背筋が凍るほど嫌な感じがする、という意味です。筆者がこの例を出して伝えたかったのは、「美しさ」だけを追い求めて、人間の命や正しさを無視することがどれほど恐ろしいかということです。美しさを他の何よりも大切（絶対的）だと思い込むと、人間の当たり前の優しさや倫理（道徳）が壊れてしまい、犯罪さえも「芸術」と呼ぶような、恐ろしい事態を招いてしまうのです。

💡ざっくり言うと💡

「『美しいことは良いことだ』と単純に信じるのではなく、その美しさが『どういう理由で価値があるのか（＝源泉）』を、倫理的な問いとして考え直さなければならない。なぜなら、シュトックハウゼンのように、本来、悲劇である出来事を『美しさ』のものさしだけで測り、芸術と呼ぶような、人の命や心の痛みを無視して「美」を優先する、反倫理的なことが起こるからだ。」

⑧ 【REVIEW ポイント⑤】

Q: 「今日の生活世界で大勢を占めている価値観は、少なくとも私の眼には、道具主義的な性質のものであるように見える」「私は、この「美」が自律的な価値ではなく、道具的価値観にも馴染まないことを意識してはいる」とあるが、「道具主義」とか「道具的価値」って何のこと？

A: ①道具的価値（道具主義）とは何か？ - 「道具的価値」とは、あるものが「別の目的を達成するための道具として役に立つ」ときに認められる価値のことです。

例えば、あなたがテストで良い点を取りたいと思って、一生懸命に勉強するとします。このとき、「勉強」は「良い点数を取る」という目的のための「道具」になっています。これが道具主義的な考え方で、これを音楽に当てはめると、音楽それ自体が目的ではなく、次のような「別の目的」のために音楽を利用することを指します。

- リラックスしてぐっすり眠るための道具（睡眠用 BGM）
- 集中力を高めて勉強をはかどらせるための道具（集中用音楽）
- 商品をたくさん売るための道具（CM ソング）
- SNS で自分の動画をバズらせるための道具（トレンド曲）
-

このように、音楽を「何かの役に立つツール」として扱うのが「道具的価値」です。

②どうして筆者にとっての音楽（＝「謎」「美」）は、「道具的価値観にも馴染まない」と言っているのか？－筆者にとっての音楽（美）は、何かの役に立つから価値があるわけではありません。筆者は音楽を「解かれることを待っている謎」だと考えています。

- 何かのために使う「道具」ではない。
- 自分の好奇心をかき立て、真剣に向き合わせる「不思議な存在」である。

筆者は、音楽を「リラックスするために聴くもの」として消費するのではなく、その正体が分からないからこそ、一生懸命にその謎を解こうとするプロセスそのものに価値を感じています。これを「自律的な価値（それ自体が目的である価値）」といいます。

💡ざっくり言うと💡

「（筆者は）音楽を『道具』として使うだけでは、音楽の本当の正体や、私たちの生きる意味（倫理）といった深い問題にたどり着くことができず、ただ表面的な美しさだけを追い求める危うい社会になってしまう（と言いたい）。そのためにも音楽を『便利な道具』として片付けるのではなく、その根底にある『なぜこれは価値があるのか？』という問いを大切にすべきだ（と言いたい）。」

【青木方式】は少々、修得に時間がかかるので、受講していない人は早めの受講をお勧めします。



高橋のぶ子『光抱く友よ』

①【まずは行番号のチェックと前書き確認】(通常の共通テスト現代文の講義通り)

🗨️ 問6の選択肢に行番号が使用されている! → 本文で確認せよ! → 本文の行の箇所に数字と○。

🗨️ 前書きチェック! 「これまでの内容」「キャラクターの説明」「今から読解する小説の冒頭や一部分が、なぜか先に説明されている」→ 設問関連の可能性大! → 『特力キ』注意。

🗨️ 本文を読みながら、その行番号付近の内容を把握したら、すぐに選択肢をチェックする! = 読みながら、問6の選択肢を吟味する。→ 速い! 🚗 🚗

三島の説明が(注2)にある!

④ 「問6」の「①」の「……」(三点リーダーという記号)は「余韻・含み」「言葉の省略」「沈黙・言いよどみ」を表す記号。

今回も、前書きの「衝撃を受けた涼子」が問2や問3のヒントになっている。「衝撃」の内容やその理由を説明していない選択肢は、速攻で×。

④ 「比喩は見分けられるようにしておかないとヤバイ」

💡 入試に出るレトリック 💡

① 擬人法(活喩) 無生物をあたかも生き物、特に人間であるかのように表現する方法。

(例文) 海がほえる。

④ 生命のないものを生命のあるものに見立てて表現することを全般的に「活喩」というが、その中でも特に人間以外のものを人間に見立てて表現する場合を「擬人法」という。しかしこの区別はグレーな部分が多く、入試では問われない。

② 直喩(明喩) 「ような(に)」などの語を伴って、たとえるものとたとえられるものを直接比較して示す方法。(例) 夢のような話

③ 隠喩(暗喩) 「ような(に)」などの表現を使わずに、直接二つの事柄結び付けて表現する方法。(例) 人間は考える葦である。

④ 声喩(擬態語・擬声語) ものごとの様子・状態をそれにふさわしい音的(無意味な音のよう)な表現で表す方法。オノマトペ。描写し

ようとするものが「音」や「声」の場合は「擬音(声)語」、描写しようとするものが「様子・状況」や「心情」などの場合は「擬態語」。

②【三人称の小説の意味】

🧠 三人称——例：ケンは～、三郎は～、父は～、彼は～ 等 →作者の視点 or 小説の世界にいない「誰か」の視点で描かれる→客観描写中心＝主人公以外のことも描かれながら、広範囲にストーリーが進む。ただし、明らかに心情とセットになった背景などの表現に関しては、それを通して「心情」が描かれる場合もある。(問6の⑤は、94～95行目について書かれているが、94～95行目は、89～91行目と同じ内容なので「情景描写」(＝周囲の風景などを唐突に描くことで、その場にいる登場人物の心情を間接的に際立たせる効果)と見なして良い。

③【REVIEW ポイント①—問2】

🧠 「どういうことか」「説明せよ」「なぜか」「理由」といった評論と同じような設問形式のものは、「評論と同じように」解く→神経衰弱読解法などを使う。

🧠 傍線部を9行目「つまらなさそうに応える松尾を見ていると、自分の受けた衝撃の方が大きい気がして、涼子はあせりを覚える。」に「神経衰弱(＝対応箇所と思われる箇所につなげる作業)」する。

🧠 選択肢にはすべて「一瞬」とあるので、その直後に注目(⚠同一表現前後注意⚠)。→選択肢を絞り込んで迷ったら『比較』。

①一瞬後悔を覚えている。✖

②一瞬言葉を詰まらせている。✖

③一瞬動揺している。

④一瞬後ろめたさを感じている。✖

⑤一瞬戸惑いを見せている。

9行目自分の受けた衝撃の方が大きい気がして、涼子はあせりを覚える。

どれが9行目と対応しているか？

🧠 ③か⑤か？→「神経衰弱した箇所の表現や内容」「理由」

「傍線やその前後(の表現や内容)」に着目。→⑤が正解。

④【REVIEW ポイント②—B・A・Rの法則】

【変化構造には👁️注意👁️】

🧠 読解の際に「時間的」「空間的(社会、地域)」な「変化」「変遷」あるいは人間の「変化(発展、衰退、感情、価値観の変化など)」について説明されている箇所が確認できた場合、「変化前(ⓐBEFORE)」「変化後(ⓑAFTER)」に着目し、またその変化を引き起こした「理由」「原因」(ⓐEASON)を探ること。＝「B・A・R」と覚える。

🧠 特に「R」が重要。選択肢の「R」が間違っていたり、無かったりする場合、その選択肢は✖。

🧠 【B・A・R】が絡んでいる場面や箇所が傍線部の場合は【B・A・Rの法則】を意識してRを捉える。

(例1) 問2の傍線部箇所「何でもなかったように問い返す松尾に涼子は口ごもった。すっかり混乱してしまった三島への気持ちを、どう整理をつければいいかわからないまま」→ここと先ほど見た「前書き」の、三島の説明から、B(涼子は三島に良いイメージを抱いていた)→A(すっかり混乱してしまった三島)

への気持) →R (前書きにある、『三島はさらに語気を強め、ひどくののしりながら松尾の顎を手で持ち上げて激しく揺すったが、突然まるで汚いものでも放るのように手を離れたため、松尾はよろめいて壁にぶつかり、そしてうずくまった』の箇所=9行目「つまらなさそうに応える松尾を見ていると、自分の受けた衝撃の方が大きい気がして、涼子はあせりを覚える。」→涼子のイメージする三島からは程遠い三島の姿を見てしまい、涼子は大きな衝撃を受けたが、松尾がそっけない態度なので、そのギャップに戸惑いを隠せない。) →この内容が反映されていない選択肢は×。→⑤しかない！速解！

(例2) 問3 関連。傍線部Bの直前「三島なんてどうってことないのよ」という台詞は9行目や25行目と同じ。→B (25行目「すっかり混乱してしまった三島への気持を、どう整理をつければいいかわからないまま」) →A (68行目「返事をする余裕もなく、どうしてこんなことに、と、三島への憤りが胃のあたりまでせり上がってくる」73~76行目「『うちが三島先生に言うたげるよ~気づいてさえいない。』→R (「三島はあってはならない間違いを犯し、それに気づいてさえいない。)」→この、主人公の涼子の、「気持ちの変化」とそのR(理由)を反映していない選択肢は×。→①しかない。速解！

④問1、問4、問5は、講義でも述べましたが、EASYかつ解説書を読む程度で理解できるので、しっかり復習しておいてください。

④【青木方式】は少々、修得に時間がかかるので、受講していない人は早めの受講をお勧めします。